
花形 透[スラムダンク]

昴星

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花形 透「スラムダンク」

【ZPDF】

Z0319E

【作者名】

昴星

【あらすじ】

女子の中だけで通用する話しを花形は聞かされる。

何となく

「花形くんてや、」

プリントを後ろに回していると、唐突に話しが掛けられた。
誰かと思えば中島さんで、いつもは小さい彼女もイスに座つたままの俺には余裕で勝てたみたいで。
彼女に見下ろされているのが今の俺にはなんか変な感じだった。

「なんだかんだで女子に人気あるよねー」
「ははっ……まさか」

今日はエイプリルフールだつたつて、なんて思いながら彼女を見上げる。

「ホントにホントに！」
田を輝かせて話している中島さんは普段とは違つて見えた。
そもそも、どうしていきなりこんな話をし始めたのかが謎ではあるが。

女がそういう話を好むためか、それとも……。

「みんな言つてるよ。いいなあつて」
「……みんな……？」
「そう！みんな！」

さり気なく眼鏡を上げながら軽く苦笑い。

聞いたこともない、そんな話し。

呼び出されたことはあれど、いつも藤真に関してのものだったし、哀しきかな、今までに付き合つた人なんていないし。

『みんな』というひとくくりの中に中島さんは入っているだろうか。

かなり望みの薄い願いを胸に抱きながら、彼女の思い人であるう藤真が教室に入つて来るのを見た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0319e/>

花形 透[スラムダンク]

2010年10月9日07時27分発行